

## ユネスコスクール「夢プロジェクト」の活動で育てたい資質や能力

### ①【知識及び技能】

持続可能な社会づくりに向けた基礎的な知識と技能を身に付ける力

夢プロジェクトでの学びを通して、地球規模の課題（環境、平和、人権、開発など）や地域社会の課題について学び、それに対応するための基礎的・実践的な知識や技能を身につけます。

### ②【思考力・判断力・表現力等】

持続可能な社会の構築に向けて、多面的・多角的に考え、自ら判断し、表現する力

地域や世界の課題について、さまざまな視点から深く考え、課題解決に向けた探究的な学習や表現を通して、課題解決能力や創造的思考力を育みます。

### ③【学びに向かう力・人間性等】

他者と協働し、よりよい社会を創る意志と実行力を備えた人間性の育成

地域との連携・協働を通じて、多様な人々と対話し、思いやりや責任感、公共心を育てながら、社会貢献の意欲や主体性を持って行動する力を養います。

夢プロジェクト（ユネスコスクール）の活動を課題解決型の学習過程で行う

【課題解決型学習の典型的な過程】

1. 課題の設定→2. 情報の収集→3. 整理・分析→4. 仮説・解決策の立案  
→5. 実践・表現→6. 振り返り・評価・次への展望

【具体例】地域クリーン作戦

#### 1. 課題の設定

- 通学路のゴミが増えていることに気づき、「地域の環境美化」をテーマに設定。
- 地域住民や児童生徒がもっと環境に関心を持ち、行動できるようにするにはどうしたらよいかを探る。

#### 2. 情報の収集

- 学区内のごみの量・種類・場所を調査（例：通学路周辺）。
- 地域の自治会や市の清掃担当、環境団体から話を聞く。
- SDGs「目標11：住み続けられるまちづくり」「目標15：陸の豊かさも守ろう」について学ぶ。

#### 3. 整理・分析

- ごみの多い場所は特定の時間帯（夕方など）に集中していることが判明。
- コンビニや公園周辺でポイ捨てが多く、意識の低さが原因と考えられる。
- 「掃除だけでなく、啓発も必要」と課題を絞る。

#### 4. 仮説・解決策の立案

- 単なる清掃活動だけでなく、「楽しさ」「協働」「気づき」がある活動をすれば、地域住民の意識が変わると仮定。
- 解決策：地域住民と一緒に「地域クリーン作戦」を企画。  
清掃と合わせて、ポスター掲示、ゴミマップの展示、ラジオ放送なども実施。

#### 5. 実践・表現

- 「地域クリーン作戦」として、全校＋地域住民で清掃活動を実施。
- 事前に作成した呼びかけポスターを公共施設や店頭に掲示。
- 活動当日の様子を写真・動画に記録し、学校ホームページや地域広報に掲載。

#### 6. 振り返り・評価・次への展望

- 事後アンケートで「清掃に参加して街を大切にしたいと思った」などの声を集める。
- ごみの減少具合を比較して、活動の成果を数値で確認。
- 次年度以降、他学年や地域の別エリアにも展開する計画を立てる。

現在、本校はユネスコスクールに加盟しています（佐賀県で1校のみです）。毎年、「夢プロジェクト」の活動をユネスコスクール活動報告として提出しています。「夢プロジェクト」の活動（ユネスコの活動とかぶせてある）は武雄北中学校の伝統や特徴の一つになっています。

しかしながら、生徒数の減少、限られた職員数の中で、新たに大がかりな活動を増やすことは現実的ではありません。

そこで、育てたい資質・能力を明確にしたうえで、今行っている活動を、その観点から再評価・再構築し、ユネスコスクールの理念に照らして意味づけを明確にて活動を継続していきたいと考えています。